

分野2：朝鮮半島の安定に向けた努力

中期目標：

北朝鮮をめぐる諸懸案を包括的に解決し、その上で、日本と北東アジア地域の平和と安定に資する形で日朝国交正常化を実現する。

過去3年度（令和5～7年度）の主な成果	課題及び今後の方向性
【拉致、核、ミサイルといった諸懸案の包括的解決に向けた取組の強化】 ● 北朝鮮は、弾道ミサイルの発射を繰り返すなど、核・ミサイル開発を継続している。一連の北朝鮮の行動は、日本の安全保障にとって重大かつ差し迫った脅威であるとともに、地域及び国際社会に対する明白かつ深刻な挑戦であり、断じて容認できない。北朝鮮による全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄に向け、国際社会が一致結束して、国連安保理決議を完全に履行することが重要である。これらの点を、各国との首脳・外相会談などにおいて確認してきている。 ● 例えば、日米韓においては、様々なレベルで意思疎通を行い、結束を強化し、北朝鮮への対応を一層進展させることを確認してきている。令和5年はキャンプ・デービッドでの日米韓首脳会合など、令和6年は首脳会合や2回の外相会合など、令和7年は5回の外相会合などを実施した。 ● 拉致問題の解決のためには、日本による主体的な取組はもちろん、その重要性について諸外国からの理解と支持を得ることが不可欠である。これらの点を、各国との首脳・外相会談や、G7サミットを含む国際会議など、外交上のあらゆる機会を捉え、提起してきている。 ● 例えば、令和8年3月に行われた日米首脳会談において、高市総理大臣から、拉致問題の即時解決について引き続きの理解と協力を求め、トランプ大統領から全面的な支持を得た。加えて、令和7年10月、訪日中のトランプ大統領及びルビオ国務長官による、拉致被害者御家族との面会は、拉致問題の即時解決に向けた米国の全面的な協力和日米の強固な連携を再確認する機会となった。	【拉致、核、ミサイルといった諸懸案の包括的解決に向けた取組の強化】 ● 北朝鮮は、弾道ミサイルの発射を繰り返すなど、核・ミサイル開発を継続している。一連の北朝鮮の行動は、日本の安全保障にとって重大かつ差し迫った脅威であるとともに、地域及び国際社会に対する明白かつ深刻な挑戦であり、断じて容認できない。北朝鮮による全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄に向け、国際社会が一致結束して、国連安保理決議を完全に履行することが重要であり、引き続き、これらの点を、各国との首脳・外相会談などにおいて確認していく。 ● 拉致問題の解決のためには、日本による主体的な取組はもちろん、その重要性について諸外国からの理解と支持を得ることが不可欠であり、引き続き、外交上のあらゆる機会を捉え、提起していく。

分野2：朝鮮半島の安定に向けた努力

参考：

- ・外交青書（第2章第2節第3項（1）：[令和6年版](#)、[令和7年版](#)、[令和8年版](#)）
- ・[北朝鮮](#)
- ・日米韓首脳会合（[令和5年8月](#)、[令和6年11月](#)）
- ・日米韓外相会合（令和6年：[2月](#)、[9月](#)、令和7年：[2月](#)、[4月](#)、[7月](#)、[9月](#)、[10月](#)）
- ・日米首脳会談（[令和7年10月](#)、[令和8年3月](#)）